

「チーム学校」理解におけるオンデマンド教材の効果 —教材視聴前後の教育支援専門職に関する記述のテキストマイニング—

安藤 久美子*

*教職キャリアセンター（心理講座）

Effectiveness of Video Materials About “School as a Team” -A Text Mining of Students’ Descriptions of Educational Support Professionals-

Kumiko ANDO*

*Teaching Career Center (Department of Psychology), Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

要 約

「チーム学校」について、教育学部では学生をどのように教育していく必要があるのだろうか。また、学生はどのように学び、どのように理解しているのだろうか。本研究では、教職キャリアセンターが開発した「チーム学校」基礎編のオンデマンド教材を学生に視聴させ、教材が学生の多職種連携の理解にどのような影響を与えているか検討することを目的とし、調査を行った。教育支援専門職養成課程心理コースの4年生47名が、教材視聴前に、教育支援専門職のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校事務3職種の説明文を記述し、その後教材を視聴し、再度3職種の説明文を記述した。そして、記述内容についてKH Coderを用いてテキストマイニングを行った。3職種の共起ネットワークを比較すると、スクールカウンセラー以外の2職種において教材の視聴前後で学生の記述内容に大きな変化が見られ、特に学校事務においてその変化は顕著であった。

記述における総頻出語・文の増加、頻出語の変化や回数の増加、視聴後の共起分析でのグループの広がりといった説明内容の変化から、「チーム学校」のオンデマンド教材の視聴は、特に他職種の理解において効果があると考えられた。また、教育学部の学生が「チーム学校」の連携・協働について学び理解する上で、本研究で使用したオンデマンド教材は、講義内ですぐ使用できる教材として有用であると考えられた。今後の課題として、教育支援専門職養成課程の他のコースの学生、および学校教員養成課程の学生でも同様の効果が見られるのかを検討する必要性や、フォローアップ調査の必要性が述べられた。

Keywords : チーム学校、オンデマンド教材、テキストマイニング

I 問 題

文部科学省中央教育審議会は2015年（平成27年）12月「チームとしての学校の在り方（以下チーム学校）と今後の改善方策について」という答申をだした。そこでは、近年グローバル化や情報化が急速に進展し、社会が大きく変化し続ける中で、複雑化・多様化した課題と向き合うため、教職員に加え、多様な背景を有する専門家が各々の専門性に応じて、学校の運営に参加することにより、学校の教育力・組織力をより効果的に高めていくことがこれからの時代には不可欠であるとされている。

では、「チーム学校」について、大学の教育学部ではどのように教育していく必要があるのだろうか。また、学生はどのように学び、どのように

理解しているだろうか。

愛知教育大学教職キャリアセンター教育支援専門職研究部門では、教育学部で学ぶ学生に対して「チーム学校」に関する質問紙を作成し、調査と分析を行った（森川, 2019; 森川・岩山・安藤, 2020）。

全学生を対象とした調査（森川・岩山・安藤, 2020）は、途中新型コロナウイルス感染症による実施方法の変更および回答率の低下による影響を受けたが、学部3年生と1・2年生の結果を比較すると、「チーム学校」の認知度や理解度は学年進行とともに上昇し、一方で学校教員養成課程と教育支援専門職養成課程との差は小さくなる傾向が伺えた。

岩山・安藤（2023）では、学生が「チーム学

校」を学び、理解するのに役に立ったと感じている授業名をあげてもらった結果を分析したところ、「チーム学校」を扱う授業は限られていることが明らかになった。

岩山・安藤 (2023) による調査では、学習上の課題や教授上の問題を調べるため、該当授業の担当者3名にインタビューを行った。その結果「時間の不足」「1年生での学習の限界」「教員の経験の違い」「学生の学習状況のばらつき」「学生の分業意識の高まり」が担当教員から課題としてあげられた。「チーム学校」の多職種連携を教える場合、教授する教員の専門性や多職種連携・協働の経験は異なるため、どのように一定の内容を教えるのかを考える必要があるが、「適切な教材がない」という意見もあった。

そのため教育支援専門職研究部門では、現場で実際に「チーム学校」の業務を担当している、もしくは担当していた実務者が解説を入れた「『チーム学校』を理解するために－困難を抱える子どもたちの支援について－基礎編」のオンデマンド教材（以下、教材）および資料冊子（杉浦・安藤・岩山・風岡・成毛・樋口・穂迫・杉原・水野, 2021）を作成し、学内全教員および附属学校、愛知県下各市町村教育委員会に配布した。また、スクールリーダーオンデマンド研修に教材を用い、受講した校長・教頭などの管理職から高評価を得たためホームページで冊子とともに公開した。しかし、学生に対しての教材視聴の効果については確認できていない。

そこで本研究では、学生に教材を視聴させ、教材が学生の多職種連携の理解にどのような影響を与えているか検討することを目的とし、調査を行った。

Ⅱ 方法

本学の教育支援専門職養成課程4年生で前期「学校・教育心理学Ⅱ」を受講している学生のうち、公認心理師を目指す心理コースの学生47名を対象とした。

倫理的配慮として、口頭で、調査は成績には関係しないこと、回答は研究に用いられること、教材の視聴前後に行うことなどの説明を行い、調査への協力に同意を求めた。

その後視聴前調査を行い、講義内で教材を視聴し、講義終了後事後調査を行った。

調査内容

(1) フェイスシート

課程とコースを尋ねた。

(2) 「チーム学校」認知度尺度

本学のこれまでの調査で使用している森川 (2019) の尺度を用いた。

(3) 「チーム学校」の理解測定尺度

本学のこれまでの調査で使用している森川 (2019) の尺度を用いた。

(4) 説明文の記述

学生が教育支援専門職の3職種をどのように理解しているかを調べるため、記述式で尋ねることとした。

心理コースの学生が最も学習していて説明しやすいと考えられたスクールカウンセラーについて

は2番目に尋ね、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、学校事務の順に尋ねた。

質問文は「『スクールソーシャルワーカーはどんな仕事をする人ですか』と尋ねられた時、あなたはどのように説明しますか。説明内容を書いてください。」であり、スクールカウンセラー、学校事務についても同様に記述を求めた。

教材視聴後は、(4)の説明文の記述のみ求めた。

Ⅲ 結果

調査に同意し、事前・事後調査ともに回答した学生43名を分析対象とした。

教材視聴前（以下視聴前）と教材視聴後（以下視聴後）に得られた記述に対して KH Coder Ver.3b07f.exe (2023 10/16 ver. 3.Beta.07f) を使用して、頻出語彙、KWIC コンコーダンスによる参照、事前・事後の共起ネットワークによる比較を行った。樋口 (2020)、末吉 (2019) の手続きに準じ、記述のみをテキスト分析することとし、抽出語リストを作成した。形態素解析には MeCab (Ver. 1.18.3181.0) を使用した。

抽出語リストの前処理を行い、別々に抽出される「スクール」「カウンセラー」「ソーシャル」「ワーカー」を「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」になるよう強制抽出する手続きをした。同様に「児童」「生徒」を「児童生徒」に、「関係」「機関」を「関係機関」に、「チーム」「学校」を「チーム学校」に、「社会」「資源」を「社会資源」になるよう等、分析を行いながら同様の手続きを行った。その結果、視聴前・後のスクールカウンセラーについての記述では19語を、視聴前・後のスクールソーシャルワーカーについての記述では16語を、視聴前・後の学校事務についての記述では15語を強制抽出した。

また、他者への説明を求める質問文のため、「～する業務」「～する人」「～を行う」などの記述が多くなる。そこで3職種共通で「業務」「人」「行う」「仕事」などの10語を「使用しない語」として抽出しないようにした。

1 頻出語から見た3職種の説明文の特徴

3職種の視聴前・視聴後の総抽出語（文章テキストに含まれる全ての語の延べ数）、異なり語数（何種類の語が含まれているかを示す数）、文、段落数を表1、表2、表3に示す。

表1 視聴前・視聴後の総抽出語、異なり語数、文、段落 (SC)

	視聴前SC	視聴後SC
総抽出語	1939	1717
異なり語数	331	295
文	93	86
段落	43	43

表2 視聴前・視聴後の総抽出語、異なり語数、文、段落 (SSW)

	視聴前SSW	視聴後SSW
総抽出語	1420	1550
異なり語数	278	291
文	66	80
段落	43	42

表3 視聴前・視聴後の総抽出語、異なり語数、文、段落（学校事務）

	視聴前学校事務	視聴後学校事務
総抽出語	1044	1455
異なり語数	220	271
文	63	86
段落	43	43

スクールカウンセラー（以下 SC）の説明のみ、視聴後に総抽出語・異なり語数・文の減少が見られたが、他の職種では視聴後に増えていた。

2 頻出語から見た3職種の説明の傾向

次に、各職種別の頻出語リストの上位10位までを、表4、表5、表6に示す。

表4 視聴前・後の頻出語リスト（SC）

順位	視聴前SC		視聴後SC	
	頻出語	回数	頻出語	回数
1	心理	40	心理	56
2	支援	35	子ども	35
3	保護者	34	カウンセリング	26
4	子ども	32	支援	26
5	児童生徒	26	保護者	25
6	学校	20	アセスメント	22
7	問題	17	児童生徒	21
8	アセスメント	15	教員	20
9	教職員	15	問題	18
10	カウンセリング	14	コンサルテーション	16
10	教員	14		

SCについての記述では「心理」が最頻出語であるが、視聴後に「カウンセリング」「アセスメント」の回数が増加し、「コンサルテーション」が10位に入り、多く使用されるようになっている。

表5 視聴前・後の頻出語リスト（SSW）

順位	視聴前SSW		視聴後SSW	
	頻出語	回数	頻出語	回数
1	学校	33	支援	42
2	環境	26	子ども	30
3	児童生徒	23	学校	28
4	支援	20	問題	26
5	子ども	19	環境	24
6	問題	17	福祉	24
7	家庭	13	生活	22
8	機関	10	連携	18
9	連携	10	児童生徒	16
10	関係機関	9	機関	12
10	生活	9		
10	調整	9		
10	福祉	9		
10	役割	9		

スクールソーシャルワーカー（以下 SSW）についての記述では、頻出語の回数が「学校」「環境」「児童生徒」以外増加しているが、特に「福

祉」が9回から24回と大きく増えている。

表6 視聴前・後の頻出語リスト（学校事務）

順位	視聴前学校事務		視聴後学校事務	
	頻出語	回数	頻出語	回数
1	学校	54	学校	64
2	管理	37	管理	34
3	事務	16	情報	24
4	備品	16	子ども	22
5	運営	11	お金	14
6	財政	10	財務	11
7	サポート	7	運営	10
8	環境	6	環境	10
9	経営	6	関わる	9
10	予算	6	経営	9

学校事務についての記述では、頻出語の回数は「管理」「運営」以外は増え、「情報」が視聴後に24回出現し説明に多く使用されている。

3 頻出語の使用について

頻出語は記述においてどのように使用されているのか、KWIC コンコーダンスにより記述を参照し検討した内容について述べる。

SCについての記述の頻出語1位は、視聴前・視聴後ともに「心理」（視聴前40回・視聴後56回）であるが、「心理の専門家」「心理の専門職」といった職種を示す内容、「心理的支援」「心理面から支える」「心理的なサポート」「心理査定」など支援方法等を示す内容、「心理状態を理解する」「心理的な面」「心理的な問題」など児童生徒の状態を示す内容、の記述が見られた。

SSWについての記述では、視聴前の頻出語1位は「学校」（33回）で、「学校と地域」「学校以外の場所の環境」「学校と関係機関をつなげる」など地域連携を示す内容、「学校内だけで解決できない」「学校内で問題がおきた」「学校現場で起きた問題」など学校での問題を示す内容、「学校と社会を結ぶ人」「学校現場における福祉を専門とした支援職」「学校と地域や家庭をつなぐ人」など職種を示す内容が見られた。

視聴後の頻出語1位は「支援」（42回）に代わり、「生活の視点から支援を行う」「福祉の面を支援する」「環境面から子どもを支援する」「社会資源や支援機関と連携」「他職種や各機関と連携して支援をする仕事」「地域支援への連携を行う」など、生活面の支援や支援機関との連携に対する説明の出現が増えている。

学校事務についての記述では、「学校」（視聴前54回・視聴後64回）が視聴前・視聴後ともに頻出語1位であり、視聴前は「学校を運営」「学校の備品の管理」「学校の財政管理」「学校の業務の効率化を図る」など、職務を示す内容の記述が見られた。「学校内で唯一の行政職」が視聴前0回から視聴後5回になり、「学校のお金の管理、情報の管理」等、金銭や備品の管理に加え情報管理の説明が見られた。

次に、説明に用いられる語はどのようなつながりで使用されているのかを、共起ネットワーク分

析によって検討する。3 職種別と視聴前後別に、KH Coder により出現回数 5 以上の上位 60 語について、各語の出現回数の多さを円の大きさと、語と語の共起関係の強さを線の太さで表し、最小ス

パニングツリー（重要とみられる線だけを残したシンプルな共起ネットワーク）を描画した。結果を図 1、図 2、図 3、図 4、図 5、図 6 に示す。

図 1 視聴前の頻出語の共起ネットワーク (SC)

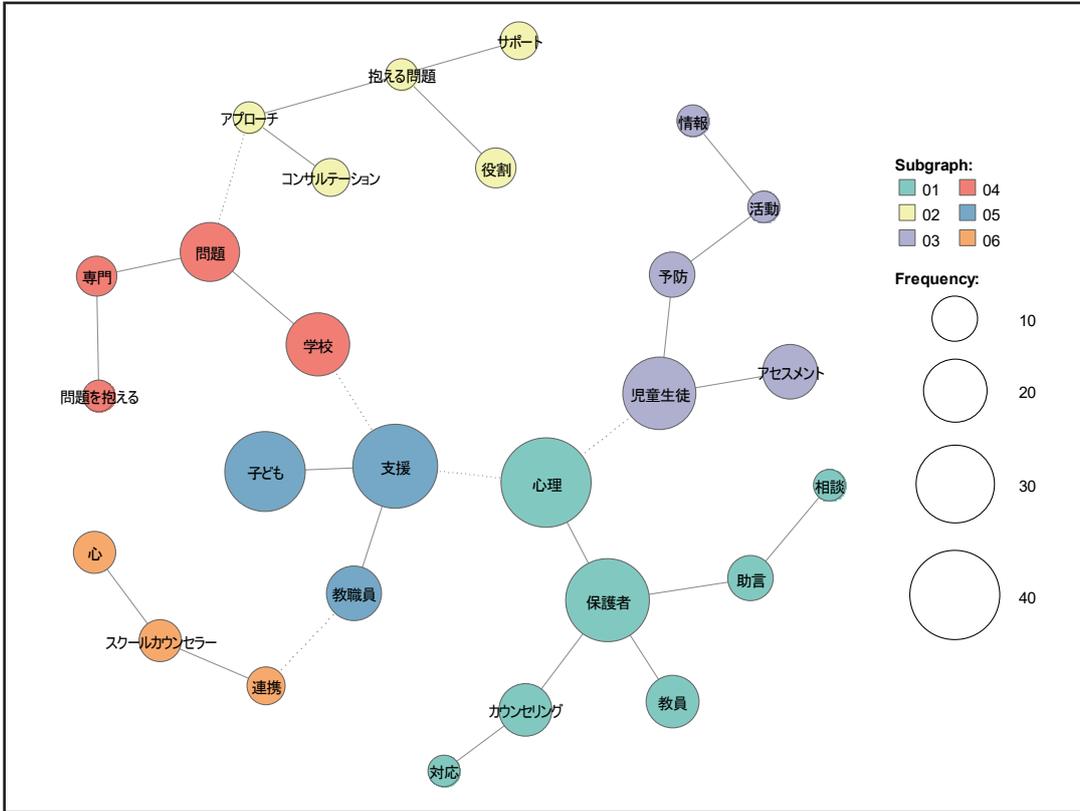


図 2 視聴後の頻出語の共起ネットワーク (SC)

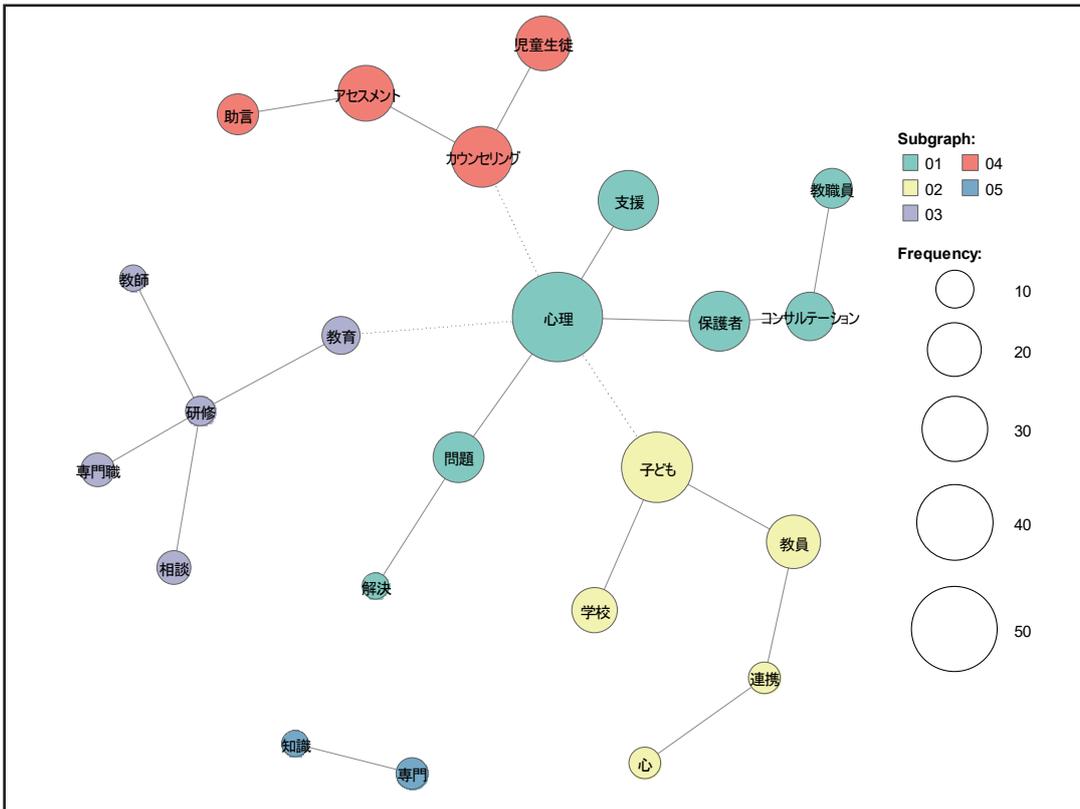


図5 視聴前の頻出語の共起ネットワーク (学校事務)

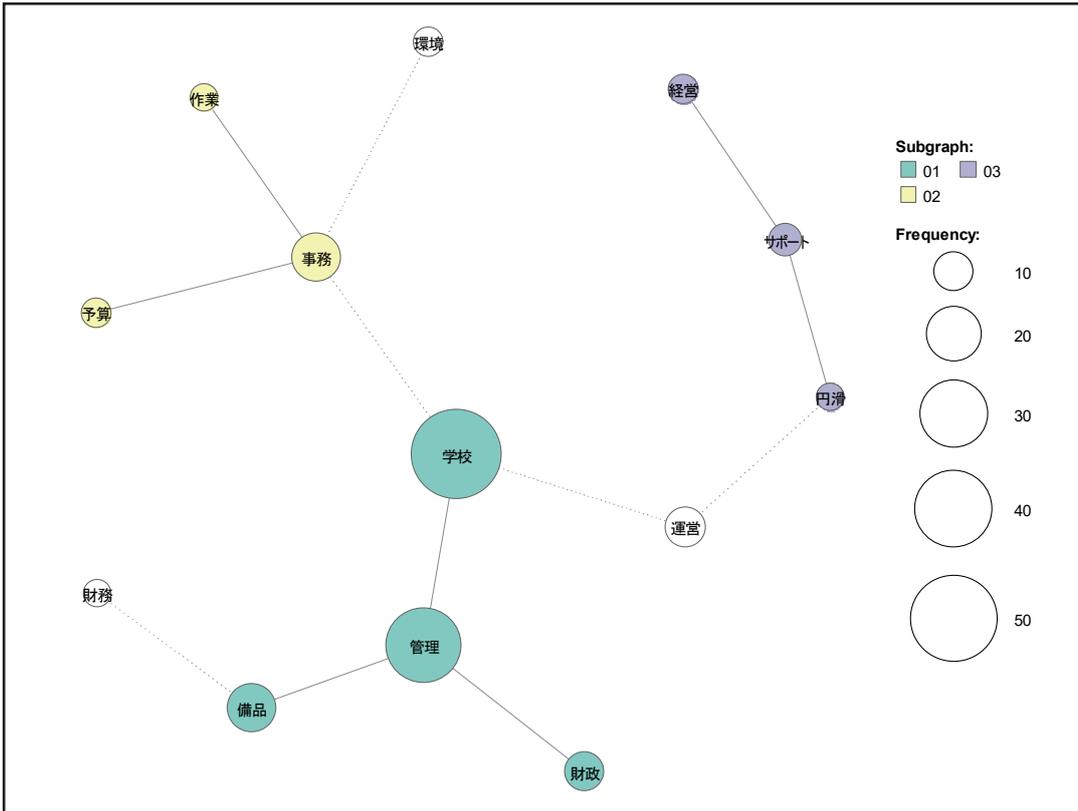
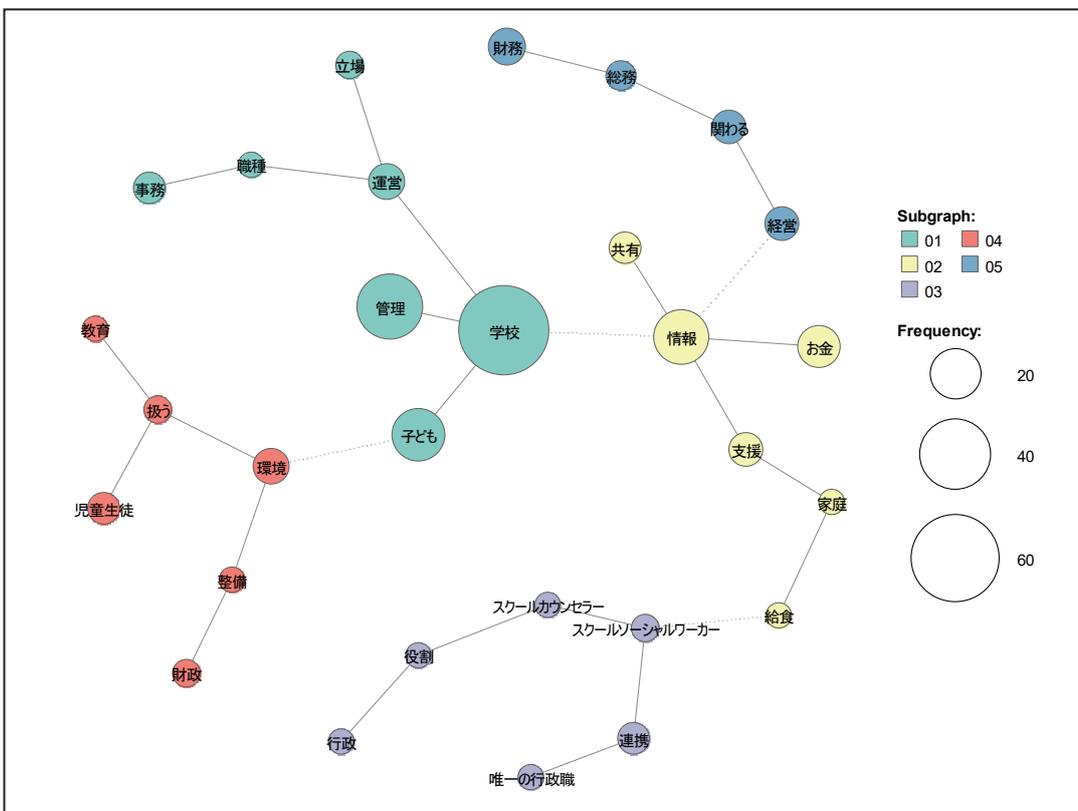


図6 視聴後の頻出語の共起ネットワーク (学校事務)



SCの共起ネットワークは、視聴前は6グループだが視聴後は5グループに変化している。

視聴前にあった児童生徒－アセスメントという関連が、視聴後には児童生徒－カウンセリング－アセスメントとなった。また視聴後には、保護者－コンサルテーション－教職員という新たな関連が出現した。語の出現回数は少ないが、研修を中心としたグループも新たに出現した。

SSWの共起ネットワークは、視聴前は5グループだが視聴後は7グループに変化している。

視聴後には、視聴前には見られなかった環境－子ども－問題という関連が新たに出現した。

学校事務の共起ネットワークは、視聴前は3グループだが視聴後は5グループに変化している。

視聴前に見られた管理－学校という関連が、視聴後は管理－学校－子どもに変わり、新たに子どもとの関わりが加わった。また視聴後には、SC－SSW－連携－唯一の行政職という多職種連携を示す関連が新たに出現した。

3職種の共起ネットワークを比較すると、特に学校事務において教材の視聴前後で学生の説明内容が大きく変化していることがわかる。

IV 考察

心理コース4年生の3職種についての記述に対して、テキストマイニングによる分析を行った結果、スクールカウンセラー以外の2職種において、教材の視聴前後で記述内容に大きな変化が見られた。記述における総頻出語・文の増加、頻出語の変化や回数の増加、視聴後の共起分析グループの広がりといった説明内容の変化から、本研究で使用した「チーム学校」のオンデマンド教材の視聴は、特に他職種の理解において効果があったと言える。

また、本研究の結果から、教育学部の学生が「チーム学校」の連携・協働について学び理解する上で、本研究で使用したオンデマンド教材は、講義内ですぐ使用できる教材として有用であると考えられる。

次に、今後の課題について述べる。

「チーム学校」のオンデマンド教材の視聴は、心理コースの学生において特に他職種の内容を学ぶ上で効果が見られたが、教育支援専門職養成課程の他のコースの学生、および学校教員養成課程の学生でも、同様の効果が見られるのか検討する必要がある。

また、今回の調査は視聴の直前・直後の実施であったが、「チーム学校」の理解については時間をかけたフォローアップ調査も必要だろう。

今回使用した教材「基礎編」は「チーム学校」「子どもの問題の複雑化・多様化」「学校の現状」「3職種の解説」の4つの内容が中心であったが、新たに開発した、模擬事例を通して連携・協働を学ぶ教材「実践編」(安藤・岩山・杉原・成毛, 2022)についても、学生の「チーム学校」の理解にどのような影響を与えるのか検討していきたい。

V 引用文献

- 安藤久美子・岩山絵理・杉原里子・成毛理子 (2022) 「チーム学校」を理解するために－校内での連携と生徒支援を考える－実践編 (オンデマンド教材・資料冊子・教材ワークシート) 愛知教育大学教職キャリアセンター Retrieved November 30, 2023 from <https://tc.aichi-edu.ac.jp/database/teamgakkou/>
- 樋口耕一 (2020) 社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－ 第2版 ナカニシヤ出版
- 岩山絵理・安藤久美子 (2023) 「チーム学校」理解や多職種連携理解に繋がる学習の現状と課題－教員養成課程の学生に対するアンケート調査を手掛かりに－ 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要, 8, 139-145
- 森川夏乃 (2019) 大学1年生の「チーム学校」の理解に関する研究－教員養成課程と教育支援専門職養成課程の比較を通して－ 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要, 4, 51-57
- 森川夏乃・岩山絵理・安藤久美子 (2020) 大学生におけるチーム学校の理解度について－学年間の比較を通して－ 日本教育支援協働学会 2019年度研究大会抄録集, 50
- 末吉美貴 (2019) テキストマイニング入門－ExcelとKH Coderでわかるデータ分析－ オーム社
- 杉浦慶一郎・安藤久美子・岩山絵理・風岡治・成毛理子・樋口亜瑞佐・穂迫桂子・杉原里子・水野純 (2021) 「チーム学校」を理解するために－困難を抱える子どもたちの支援について－基礎編 (オンデマンド教材・資料冊子) 愛知教育大学教職キャリアセンター Retrieved November 30, 2023 from <https://tc.aichi-edu.ac.jp/database/teamgakkou/>